

# ス イ ス

# Swiss Confederation

	2008年	2009年	2010年
①人口:787万人(2010年末)			
②面積:4万1,285k m <sup>2</sup>			
③1人当たりGDP:6万7,246米ドル (2010年)			
④実質GDP成長率(%)	1.9	△1.9	2.6
⑤貿易収支(スイス・フラン)	151億800万	167億1,600万	179億9,000万
⑥経常収支(スイス・フラン)	126億5,500万	615億4,600万	796億1,800万
⑦外貨準備高(米ドル)	450億6,090万	981億9,940万	223億4,810万
⑧為替レート(1米ドルにつき、 スイス・フラン、期中平均)	1.0831	1.0881	1.0429

〔注〕⑤⑥:国際収支ベース、⑤貴金属・宝石、芸術品、骨とう品(加工して貨幣またはその代替品として流通可能なもの)含まず  
〔出所〕①②:スイス連邦統計局、③⑦⑧:IMF、④⑤⑥:スイス国立銀行

2010年のスイス経済は、輸出と内需双方の回復により2.6%のプラス成長に転じた。貿易は、輸出入ともに拡大し、新興国との貿易拡大が目立った一方、スイス・フラン高とエネルギー・原材料の価格高騰の影響が出始めた。対内直接投資は引き揚げ超過となったが、対外投資はフラン高を国外での企業買収の好機とみる企業も多く拡大基調となった。対日貿易は、輸出が減少した一方、輸入が増加したため、貿易黒字は縮小した。日本との直接投資交流は活発化した。

## ■ 輸出と内需双方の回復でプラス成長に

2010年のスイス経済は、輸出が回復し、財・サービス輸出全体では8.3%増の伸びを示したこと、設備投資が5.7%増、建設投資が3.3%増、個人消費が1.7%増と、内需も着実な回復ぶりを示したことにより、実質GDP成長率が前年のマイナス1.9%から転じて、2.6%のプラス成長となった。産業部門別に成長率をみると、金融・保険・不動産・情報サービス部門が4.9%と大幅な成長となり、建設部門が4.1%、製造業も3.2%と好調で景気を牽引した。一方、ユーロ圏の公的債務問題や米国経済の先行き不透明さなどを理由に、2010年にはスイス・フランがユーロやドルに対して最高値を更新するなどスイス・フラン高が続き、輸出への悪影響が懸念された。ただし、景気や為替に左右されにくい医薬品が最大の輸出品目となっていること、BRICs 諸国やアジアなど新興市場向けの伸びが大きかったことなどにより、影響は限定的なものにとどまった。

失業率は、2009年10月～2010年4月までスイスとしては高い4%台が続いたが、2011年5月には2.9%にまで低下した。2010年には、石油や原材料価格上昇などインフレ要因はあったものの、フラン高による輸入価格下落により相殺されるかたちで消費者物価上昇率(年平均)は、0.7%と極めて安定した。

2011年の経済について連邦経済省・経済事務局(SECO)は、フラン高による輸出への悪影響、石油や原材料価格の上昇によるインフレ懸念など不安要因はあるものの、低金利を背景に堅調な建設投資と設備投資、雇用の安定を背景とする個人消費の好調さなどは維持されるとみている。そして、実質GDP成長率は2.1%(2011年6月時点予測)、消費者物価上昇率は0.7%、失業率は

3.1%と見込んでいる。

## ■ 輸出入とも増加したが、貿易黒字は縮小

2010年の貿易(通関ベース)は、輸出が前年比7.1%増の1,934億4,200万スイス・フラン(以下CHF)、輸入は8.6%増の1,740億CHFとなった。貿易収支は、194億4,200万CHFの黒字となり、過去最高となった前年の203億4,700万CHFを下回った(ただし過去2番目の黒字幅)。これはフラン高の影響に加え、医薬品などの輸出好調な部門で原材料などの輸入が大幅に増加し、対ユーロ圏での貿易赤字が拡大したことが背景にある。

輸出を品目別にみると、最大輸出品目の医薬品が全体の31.3%を占め、前年比4.2%増となった。医薬品は世界金融危機の影響でほぼすべての品目で輸出が大幅減となった2009年でさえ、5.3%の伸びをみせたほど景気に左右されにくい品目で、スイスの経済成長を支える柱となっている。スイス化学工業会が発表した統計によれば、医薬品の輸出相手国は多い順に米国(構成比12.8%)、ドイツ(12.1%)、イタリア(10.1%)となっており、また、EU27向けが全体の56.8%を占めた。次いで産業用機械(11.2%)が9.6%増の伸びを示した。スイス機械・電機工業会(SWISMEM)が発表した2010年の機械輸出統計によると、金額順に首位がドイツ(構成比26.4%)で8.0%増、米国(9.5%)が10.8%増、フランス(6.8%)が0.3%増であった。また2010年は中国向けが45.9%増と急増し4位となった。同工業会によれば、地域別で最大の輸出先は全体の62.1%を占める欧州(4.1%増)で、他方、伸び率が最も高かったのがアジア(19.1%)で、15.4%の伸びだったという。産業用機械に次ぐのが時計(8.4%)で22.2%増と大幅な伸びとなった。スイス時計協会によれば

表 1 スイスの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万 CHF, %)

	輸出(FOB)				輸入(CIF)			
	2009年		2010年		2009年		2010年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
農・林業製品	8,262	8,497	4.4	2.8	13,306	13,398	7.7	0.7
燃料・エネルギー	5,296	5,719	3.0	8.0	12,063	13,411	7.7	11.2
繊維・衣料・靴	3,687	3,386	1.8	△ 8.2	9,042	8,956	5.1	△ 1.0
皮革・ゴム・プラスチック	4,171	4,482	2.3	7.5	5,810	6,204	3.6	6.8
化学品	71,771	75,875	39.2	5.7	34,964	37,787	21.7	8.1
医薬品	58,186	60,644	31.3	4.2	23,473	25,201	14.5	7.4
金属製品	10,489	12,738	6.6	21.4	12,323	14,378	8.3	16.7
機械および電気・電子機器	33,741	36,431	18.8	8.0	29,250	31,440	18.1	7.5
産業用機械	19,704	21,593	11.2	9.6	11,911	12,194	7.0	2.4
電気・電子機器	11,326	12,232	6.3	8.0	9,209	10,848	6.2	17.8
輸送用機器	5,343	4,021	2.1	△ 24.7	14,961	16,593	9.5	10.9
道路輸送用機器	1,847	1,975	1.0	6.9	11,578	13,208	7.6	14.1
精密機械・時計・装身具	32,407	36,967	19.1	14.1	15,378	18,616	10.7	21.1
時計	13,229	16,163	8.4	22.2	2,225	2,643	1.5	18.8
精密機器	13,835	14,394	7.4	4.0	6,447	6,773	3.9	5.1
装身具・装飾品	4,412	5,144	2.7	16.6	4,670	7,291	4.2	56.1
家具・玩具	1,560	1,515	0.8	△ 2.9	5,237	5,284	3.0	0.9
合計(その他含む)	180,534	193,442	100.0	7.1	160,187	174,000	100.0	8.6

[注] 表 2, 8とも、貴金属・宝石、芸術品、骨とう品(加工して貨幣またはその代替品として流通可能なもの)含まず。

[出所] 表 2, 8とも、スイス連邦関税局。

表 2 スイスの主要国・地域別輸出入<通関ベース>

(単位:100万 CHF, %)

	輸出(FOB)				輸入(CIF)			
	2009年		2010年		2009年		2010年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
EU27	109,130	113,237	58.5	3.8	128,630	137,673	79.1	7.0
ユーロ圏	92,367	95,490	49.4	3.4	116,604	124,296	71.4	6.6
ドイツ	35,283	37,776	19.5	7.1	53,840	57,270	32.9	6.4
イタリア	15,455	15,517	8.0	0.4	17,922	18,366	10.6	2.5
フランス	15,225	15,139	7.8	△ 0.6	15,264	15,217	8.7	△ 0.3
非ユーロ圏	16,763	17,747	9.2	5.9	12,027	13,377	7.7	11.2
英国	8,521	9,077	4.7	6.5	5,563	6,234	3.6	12.1
ポーランド	1,816	2,068	1.1	13.9	1,115	1,287	0.7	15.4
チェコ	1,476	1,697	0.9	15.0	1,707	2,109	1.2	23.6
米国	17,654	19,477	10.1	10.3	8,029	8,158	4.7	1.6
中国(香港除く)	5,400	7,078	3.7	31.1	5,139	6,072	3.5	18.2
日本	6,824	6,426	3.3	△ 5.8	2,791	3,239	1.9	16.1
ロシア	2,115	2,667	1.4	26.1	523	677	0.4	29.4
インド	2,144	2,548	1.3	18.8	744	901	0.5	21.1
ブラジル	1,998	2,315	1.2	15.9	659	847	0.5	28.5
韓国	1,883	2,237	1.2	18.8	415	437	0.3	5.3
トルコ	1,801	2,108	1.1	17.0	690	755	0.4	9.4
合計(その他含む)	180,534	193,442	100.0	7.1	160,187	174,000	100.0	8.6

時計の主要な輸出相手国・地域は首位が香港(19.7%)で46.9%増、米国(10.4%)は13.8%増、フランス(7.2%)20.5%増。2010年は中国が57.0%増と大幅な伸びで6.8%を占め、4位に浮上した。スイスの高級時計はアジアの富裕層に人気が高く、輸出全体の52.6%がアジア向けだった。このほか、大幅な伸びを示した品目は、金属製品(6.6%)で、金融危機後、世界的に低迷していた自動車生産用のアルミニウムやスチールの需要が回復したことから21.4%増となった。しかし、スイスアルミニウム協会によれば、フラン高による輸出価格調整は、輸出企業にコスト削減を強いており、低コストが期待できる国外での生産

の可能性を模索するなど、2011年に向けた課題は多いとしている。

国・地域別では、ほとんどの地域で輸出の増加がみられた。EU27はスイスにとって地域別で最大の輸出先であり、全体の58.5%を占め、3.8%増となった。EU27向け輸出が3.8%増と輸出全体を下回る伸びにとどまったのは、輸出の約3割を占め、最大の輸出品目である医薬品が、前年のインフルエンザ流行による関連薬需要のほぼ一巡などにより0.4%の伸びにとどまったためだ(スイス化学工業会統計)。スイスにとって最大の輸出相手国はドイツで、輸出全体の19.5%を占め、増加率は7.1%増となった。次が米国(10.1%)で10.3%増となった。ドイツと米国は、常に医薬品や機械類など、スイスの主要輸出品目の1位あるいは2位の輸出相手国になっている。大きく伸びたのは、BRICs諸国で、中国31.1%増、ロシア26.1%増、インド18.8%増、ブラジル15.9%増だった。

輸入を品目別にみると、最大の輸入品目は輸出同様、医薬品(構成比14.5%)で7.4%増となった。医薬品輸出が好調なことから医薬品中間体などの輸入が多かったことが考えられる。スイス化学工業会統計によれば、輸入相手国は多い順にアイルランド(26.5%)、ドイツ(25.4%)、イタリア(21.3%)であり、上位3ヵ国で全体の約8割を占めた。医薬品のほか化学品原料の輸入も増えたことから化学品全体(21.7%)で8.1%増となった。次いで道路輸送用機器(7.6%)が14.1%増となった。スイス自動車輸入協会によれば2010年の乗用車新規登録台数は29万4,239台で10.6%増となり、2002年以来で最大となった。自動車メーカーの国籍別にみるとドイツ(33.8%)が10.4%増、日本(20.4%)が2.3%増、フランス(15.4%)が

表3 スイスの対内・対外直接投資の推移  
 <国際収支ベース、ネット、フロー>

(単位:100万 CHF)					
	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
対内直接投資額	54,815	38,934	16,408	29,341	△ 6,843
対外直接投資額	95,071	61,242	59,900	36,182	60,752

[注] 表4, 7とも2010年は速報値。

[出所] 表4, 5, 7, 8とも、スイス国立銀行。

表4 スイスの業種別対内直接投資  
 <国際収支ベース、ネット、フロー>

(単位:100万 CHF)			
	2008年	2009年	2010年
製造業	2,444	8,714	7,042
化学	944	3,107	n.a.
金属・機械	1,041	686	n.a.
電気・光学・時計等	△ 705	3,234	n.a.
サービス	△ 759	4,777	5,320
商業	△ 5,319	2,856	n.a.
銀行	2,518	2,309	n.a.
保険	1,267	1,230	n.a.
運輸・情報	△ 187	△ 520	n.a.
金融持ち株会社	14,723	15,849	△ 19,205
合計	16,408	29,341	△ 6,843

[注] 表7とも、2010年の業種別明細は未公表。

表5 スイスの国・地域別対内直接投資  
 <国際収支ベース、ネット、フロー>

(単位:100万 CHF)		
	2008年	2009年
欧州	△ 9,357	76,187
EU27	△ 8,195	75,229
オランダ	△ 15,836	31,459
ルクセンブルク	4,010	23,601
英国	△ 3,947	6,720
フランス	△ 2,922	3,698
ドイツ	180	1,521
スウェーデン	666	1,517
イタリア	1,191	△ 101
スペイン	74	△ 754
ベルギー	△ 2,285	△ 3,400
北米	20,853	△ 35,213
米国	21,513	△ 35,087
中南米	5,142	△ 11,208
アジア・大洋州・アフリカ	△ 231	△ 425
日本	△ 498	69
合計(その他含む)	16,408	29,341

[注] 表8とも2010年は未公表。

18.2%増の順だった。このほか、輸出好調による需要増と原材料・エネルギー価格の上昇により、金属製品(8.3%)が16.7%増、燃料・エネルギー(7.7%)が11.2%増となった。装身具・装飾品(4.2%)が56.1%増という大幅な伸びを示したが、連邦統計局によれば2009年にベトナム政府が外貨繰り改善を目的として金輸出を解禁したため、2010年も前年に引き続き同国から加工用金地金の輸入が行われたことによるという。

国・地域別では、EU27が例年同様、最大の輸入相手で79.1%を占めており、7.0%増だった。国別ではドイツが最大で32.9%を占めて6.4%増、以下イタリア(10.6%)が2.5%増、フランス(8.7%)が0.3%減と続いた。これら3カ

国からの輸入品目は食品から機械や自動車まで多岐にわたる。また、中国(3.5%)が18.2%増、ロシア(0.4%)が29.4%増、インド(0.5%)が21.1%増、ブラジル(0.5%)が28.5%増など、輸出同様、BRICs 諸国からの輸入拡大ぶりが目立った。

## ■2010年は対内直接投資が回復

スイス国立銀行によれば、2009年の対内直接投資額(国際収支ベース、ネット、フロー、対外も同様)は、293億4,100万CHFとなり、前年の164億800万CHFを大きく上回った。年後半になって金融危機により控えられてきた外国企業によるスイス企業買収が増加しただけでなく、既存支社への資本増強が再び盛んになり、また再投資収益も増加したためだ。業種別にみると、製造業部門は、87億1,400万CHFと2008年の24億4,400万CHFから増加した。内訳をみると、電気・光学・時計等部門が32億3,400万CHFと大きく、化学部門が31億700万CHFと続いた。スイス国立銀行によると、製造業部門では、電気・光学・時計等分野で既進出企業による資本増強が中心となったのに対し、化学・医薬品分野では企業買収が活発に行われた。化学・医薬品部門の大型の投資事例としては、ドイツのBASFによるチバ・スペシャリティ・ケミカルズの買収(61億CHF)、三菱樹脂によるプラスチック加工大手クオドラントの買収(1億4,850万CHF)、ゼリア新薬工業によるティロツツ・ファーマの買収(1億3,600万CHF)などがあつた。このほか、中国の石油化学集团公司(シノペック)がアダックス・ペトロリアム(石油掘削)を買収した事例(75億6,500万ドル)があり、2009年最大の対内直接投資案件だった。サービス部門では、商業部門が28億5,600万CHFと最大だったが大型案件は見当たらない。金融部門は引き揚げ超過となったが、米国パークシャー・ハサウェー(投資会社)によるスイス・リー(再保険)の生命保険部門買収(13億CHF)などの大型案件も見られた。

国・地域別では、EUからの投資が大きく増加したのに対し、米国からは投資引き揚げ超過になった。国立銀行は、米国企業におけるグループ内の組織再編に伴い、オランダやルクセンブルク経由でスイスへの投資が行われるようになったことが理由だとしている。このため、オランダとルクセンブルクからの対内直接投資額はそれぞれ314億5,900万CHFと236億100万CHFとなり、前年から大幅に増加した。

2010年の対内直接投資額は、68億4,300万CHFの引き揚げ超過となった。対内直接投資が引き揚げ超過となったのは2005年以来5年ぶりのことで、金融持ち株会社部門で192億500万CHFの引き揚げ超過があつたことが主因だ。詳細な業種別および国・地域別統計は2011

表 6 2010 年のスイスの主要対内直接投資案件

買収・投資企業	買収・投資企業の国籍	被買収(スイス)企業	金額	時期
CVC(投資ファンド)	英国・ルクセンブルク	サンライズ(通信)	33 億 CHF	10 月
セファロン(医薬品)	米国	メファ(医薬品)	6 億 6,240 万 CHF	4 月
ゲデオン・リヒター(医薬品)	ハンガリー	プレグレム(医薬品)	4 億 4,500 万 CHF	10 月
パイオジェン・アイデック(医薬品)	米国	ニューイムーン子会社 (イミュノセラピューティカル)	3 億 9,500 万ドル	12 月
アドビ・システムズ(ソフトウェア)	米国	デイ・ソフトウェア(ソフトウェア)	2 億 5,500 万 CHF	10 月
ヤラ・インターナショナル(農業)	ノルウェー	バルダートン・ファーティライザー (肥料, 株式の 50% を買い増し)	1 億 3,000 万ドル	1 月
トーマスアンドベッツ (ケーブル結束具)	米国	PMA(ケーブル保護システム)	8,500 万ユーロ	2 月
CTSイベンティム (イベント関連業務)	ドイツ	チケットコーナーホールディング (チケット販売)	n.a.	2 月

[出所] 表 9 とも各社発表に基づきジェトロ作成。

年 7 月現在発表されていないが、製造業部門では、70 億 4,200 万 CHF、サービス部門は、53 億 2,000 万 CHF だった。2010 年の最大の案件は英国およびルクセンブルクの投資ファンド CVC キャピタル・パートナーズがデンマークの通信サービス大手 TDC 傘下のサンライズ(通信サービス)を 33 億 CHF で買収した事例だ。業種別に主要投資案件をみると、製造業部門では医薬品関連の案件が多く、米国の医薬品セファロンによる後発医薬品製造販売メファの買収(6 億 6,240 万 CHF)、ハンガリーのゲデオン・リヒターによる不妊治療薬専門プレグレムの買収(4 億 4,500 万 CHF)などがみられた。また、IT・ソフトウェア部門で米国のアドビ・システムズ(ソフトウェア)による同業のデイ・ソフトウェア・ホールディングの買収(2 億 5,500 万 CHF)があった。一方、サービス部門では、前述のサンライズ買収のほか、インドの建設会社ヒンドウスタン・コンストラクションによる不動産カール・スタイナーの買収(3,500 万 CHF)などがあった。

スイスの立地条件の良さ、有利な税制、語学が堪能で優秀な人材が豊富、多国籍企業が多く国際的に開放的であることなどを理由に、スイスに本社を移転したり欧州本社を設立したりする例は 2010 年も続いた。英国のイネオス(化学)、米国のパーカー・ハネフィン(モーションコン

トロール技術)、シグマ・アルドリッチ(化学)、ザ・ニールセン・カンパニー(市場調査機関)などがスイスに本社を移転または欧州本社を設立した事例だった。

### ■ 2010 年は対外直接投資も大幅回復

2009 年の対外直接投資額は、361 億 8,200 万 CHF で、前年の 599 億 CHF を下回った。中央銀行によれば、金融危機後の先行き不透明感と資金調達難により、スイス企業が外国企業の買収を控えたため、製造業部門では、企業買収による投資額が激減したという。しかし、不況の影響をあまり受けず、損失が少なかった医薬品分野では、ロシュによる米国のジェネンテックの買収(527 億 CHF)、ノバルティスによる子会社サンド(スイス)を通じたオーストリアのエーバーヴェー・ファーマの買収(13 億 CHF)などがあった。サービス部門では、保険部門で買収事例が

表 8 スイスの国・地域別対外直接投資  
＜国際収支ベース、ネット、フロー＞

(単位:100 万 CHF)

	2008 年	2009 年
欧州	26,728	7,690
EU27	16,199	12,285
英国	△ 11,679	7,628
オランダ	4,641	7,340
ドイツ	5,392	3,121
スペイン	△ 313	1,276
スウェーデン	2,182	722
フランス	3,083	232
イタリア	919	△ 618
ベルギー	292	△ 1,716
ルクセンブルク	14,718	△ 4,944
ロシア	456	△ 738
北米	37,152	8,727
米国	39,844	5,332
中南米	△ 10,574	8,764
ブラジル	778	139
アジア・大洋州・アフリカ	6,595	11,000
日本	1,371	2,003
シンガポール	△ 16,376	1,608
中国	1,401	1,211
インド	1,207	885
韓国	839	659
合計(その他含む)	59,900	36,182

表 7 スイスの業種別対外直接投資  
＜国際収支ベース、ネット、フロー＞

(単位:100 万 CHF)

	ネット、フロー		
	2008 年	2009 年	2010 年
製造業	39,120	13,195	19,703
化学	16,822	4,511	n.a.
金属・機械	4,186	332	n.a.
電気・光学・時計等	9,053	6,315	n.a.
サービス	79	28,723	20,731
商業	6,445	14,779	n.a.
銀行	1,095	3,377	n.a.
保険	△ 7,994	6,300	n.a.
運輸・情報	955	85	n.a.
金融持ち株会社	20,701	△ 5,736	20,318
合計	59,900	36,182	60,752

表9 2010年のスイスの主要対外直接投資案件

買収(スイス)企業	被買収企業	被買収企業の資本国籍	買収額	時期
ネスレ(食品)	クラフトフーズ冷凍ピザ事業	米国	37億ドル	3月
グレンコア・インターナショナル(資源)	プロデコ鉱山(石炭)	コロンビア	22億5,000万ドル	3月
ノーブル(石油掘削)	FDRホールディングス(石油掘削)	米国	17億ドル	7月
アデコ(人材派遣)	MPS(人材派遣)	米国	n.a.	1月
ABB(重電・エンジニアリング)	ベンティクス(ソフトウェア)	米国	10億ドル以上	6月
アриста(食品・医薬品)	フレッシュ・スタート・ベーカリーズ(製パン)	米国	9億ドル	7月
アルコン(眼科医療機器)	LenSxレーザーズ(レーザー医療機器)	米国	7億4,400万ドル	8月
ノバルティス(医薬品)	コルセラ(バイオ医薬品)	米国	6億2,000万ドル	2月
アレスライフサイエンス(医薬品)	スタラジン(医薬品)	フランス	n.a.	11月
アриста(食品・医薬品)	メイドストーン・ベーカリーズ(製パン)	カナダ	4億CHF	10月

多々みられた。例えば、チューリッヒ・ファイナンシャル・サービスが米国子会社ファーマーズを通じて 21st センチュリー・インシュランス・グループを中心とする AIG 傘下の自動車保険部門を買収した事例(19 億ドル)が挙げられる。また、金融持ち株会社部門は 57 億 3,600 万 CHF の引き揚げ超過となった。

国・地域別にみると、欧米向けが中心となっており、特に英国、オランダ、米国が主要な投資相手国だった。

2010 年の対外直接投資額は、607 億 5,200 万 CHF となった。景気回復に伴い資金繰りに見通しがついたこと、スイス・フラン高を背景に外国企業買収の好機との考えから、対外投資に再び積極的となり、前年を大きく上回った。製造業部門では、前年の 131 億 9,500 万 CHF から 197 億 300 万 CHF へと増加した。2010 年前半は国外拠点設立が中心となり、企業買収はそれほど活発ではなかったが、2010 年後半からは、フラン高による割安感から買収が活発化した。サービス部門は前年の 287 億 2,300 万 CHF から 207 億 3,100 万 CHF へと縮小したが、金融持ち株会社部門は前年の引き揚げ超過から一転して 203 億 1,800 万 CHF となった。

2010 年の最大投資案件は、食品のネスレによる米国クラフトフーズの冷凍ピザ部門の買収(37 億ドル)だった。

ネスレによるクラフトフーズ冷凍ピザ部門買収に次ぐ大型案件は鉱山開発グレンコアが同業スイスのエクストラタからコロンビアの石炭鉱山を買い戻した案件(22 億 5,000 万ドル)とノーブル(石油掘削)による米国の同業 FDR を 17 億ドルで買収した事例で、ともに資源・エネルギー関連である。資源エネルギー関連では、このほか、ペトロプラス(石油)による米国のデラウェア・シティにある製油所買収(2 億 2,000 万ドル)、電力供給アルピックによるスペインの天然ガス発電所を所有するフェノサ買収(2 億ユーロ)などもあった。IT・ソフトウェア部門では、ABB(重電・エンジニアリング)による米国の設備管理ソリューション提供ベンティクス買収(10 億ドル)が大型案件であった。また、前年同様、医薬品部門での買収も活発に

行われ、ノバルティス(医薬品)による米国コルセラ(バイオ医薬品)買収(6 億 2,000 万ドル)、アレスライフサイエンス(医薬品)によるフランスの同業スタラジンの買収などが挙げられる。サービス部門では人材派遣のアデコによる米国の同業 MPS 買収が大型案件だった。

対外直接投資を国・地域別にみると、大型 M&A 案件が米国に集中し、主な 10 の案件中、米国向けが 7 件を占めた。このほか、BRICs などの新興国市場向けの投資も着実に行われている。例えばネスレはインドのマネサールに R&D センターを建設(投資額 5,000 万 CHF)したほか、インドネシア、ドバイ、チリに乳製品工場を建設(総額 3 億 3,600 万ドル)するほか、ウクライナでのシェアード・サービスセンター開設(2,500 万 CHF)などを発表した。

## ■対日輸出は減少、日本からの投資は増加

2010 年の対日貿易は、輸出が前年比 5.8%減の 64 億 2,600 万 CHF、輸入が 16.1%増の 32 億 3,900 万 CHF となった。輸出は、ほとんどの主要相手国向けが増加する中、対日輸出は減少し、貿易黒字は 31 億 8,700 万 CHF となり、前年より縮小した。

対日輸出を品目別にみると、医薬品が全体の 51.4%を占めた。2009 年は新型インフルエンザの流行で、関連医薬品が多量に輸出され、2008 年比 45.8%増となったが、2010 年はそれら医薬品の備蓄が進み、また、需要がほぼ一巡したこともあり、14.1%減となった。この医薬品輸出の減少が輸出総額の減少につながった。前年は 34.9%の大幅減となった時計(完成品、構成比 11.7%)は、5.2%増加した。装身具・装飾品(4.0%)は、金など原料の値上がりもあり、32.0%増の大幅な伸びとなった。

対日輸入は、EU27(7.0%増)や米国(1.6%増)などほかの先進国からの輸入に比べ、16.1%増と大幅な伸び率となった。最大の品目は、乗用車(30.1%)で 4.7%増となり、数量ベースでも 5.0%増だった。スイス自動車輸入協会によれば、2010 年の日本車(乗用車)の新規登録台数は 5 万 9,943 台で前年比 2.3%増だったが、登録台

表 10 スイスの対日主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万 CHF, %)

	輸出(FOB)					輸入(CIF)			
	2009年		2010年			2009年		2010年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
農・林業製品	263	241	3.8	△ 8.4	農・林業製品	13	18	0.6	38.5
たばこ	194	159	2.5	△ 18.0	繊維・衣服・靴	20	24	0.7	20.0
繊維・衣服・靴	178	85	1.3	△ 52.2	化学品	626	691	21.3	10.4
衣類	87	44	0.7	△ 49.4	医薬品	413	454	14.0	9.9
機能付繊維	55	10	0.2	△ 81.8	化学原材料	143	156	4.8	9.1
化学品	4,197	3,693	57.5	△ 12.0	機械および電気・電子機器	389	398	12.3	2.3
医薬品	3,849	3,306	51.4	△ 14.1	建設関連機器	164	148	4.6	△ 9.8
化学原材料	212	219	3.4	3.3	電気・電子部品	108	130	4.0	20.4
金属製品	106	185	2.9	74.5	輸送用機器	998	1,050	32.4	5.2
機械および電気・電子機器	504	564	8.8	11.9	乗用車	930	974	30.1	4.7
電気・電子部品	123	139	2.2	13.0	商用車	32	32	1.0	0.0
精密機器・時計・装身具	1,440	1,517	23.6	5.3	精密機器・時計・装身具	593	880	27.2	48.4
時計(完成品)	715	752	11.7	5.2	装身具・装飾品	292	572	17.7	95.9
医療機器	328	300	4.7	△ 8.5	光学機器	136	119	3.7	△ 12.5
装身具・装飾品	194	256	4.0	32.0	時計(完成品)	71	75	2.3	5.6
計測機器	116	109	1.7	△ 6.0	時計部品	32	43	1.3	34.4
合計(その他含む)	6,824	6,426	100.0	△ 5.8	合計(その他含む)	2,791	3,239	100.0	16.1

数のシェアでは 22.0%から 20.4%にわずかながら低下した。

2009年の日本からスイスへの直接投資は、前年の引き揚げ超過(4億9,800万CHF)から6,900万CHFへと増加した。一方、スイスから日本への直接投資は、前年の13億7,100万CHFから20億300万CHFに増加した。

2009年の日本からスイスへの主要投資案件としては、前述の三菱樹脂によるプラスチック加工大手クオドラントの買収と、ゼリア新薬工業による腸疾患治療薬製造のティロット・ファーマ買収などがあつた。

2010年の日本からスイスへの投資事例としては、日立造船によるゴミ処理設備開発 AE&E イノファ買収(30万CHF)、資生堂による市場シェア拡大のためスイス販売代理店の完全子会社化、またマイクロモーターの並木精密宝石がローザンヌ連邦工科大学(EPFL)内のサイエンスパークに支社を設立した事例がある。一方、王子製紙はイルフォード・イメージング(インクジェット関連製品)を英国のパラダイム・グローバル・パートナーズに売却した。

2011年に入って日本からの投資は活発化しており、4月にナブテスコがセキュリティシステム製造カバ・ホールディングより自動ドア事業部門と子会社カバ・ギルゲンを買収(200億円)、同じ4月には三井化学がメガネレンズ用プラスチック原料製造のアコモンを買収した。また、5月には武田薬品工業がナイコメド(医薬品)を98億ユーロ(約1兆1,000億円)で買収したほか、東芝がランディス・ギア(メーター製造)を23億ドル(約2,000億円)で買収する契約を締結したと発表した。

一方、2010年のスイスから日本への投資事例としては、シーカ(化学)によるヘンケル・ジャパンのシーリング材部門買収、同じくシーカによる建設用防水加工専門ダイフ

レックスHDの買収などがあつた。また2011年3月には、めっき製造のメタローテクノロジーズ・インターナショナルがエヌ・イー・ケムキャットの表面処理薬品事業100%を買収した。

2009年9月に日本とスイスの自由貿易・経済連携協定(FTEPA)が発効し、日本から企業内転勤をする重要職責者に対し、滞在許可証の発給数量制限が廃止されるなど、日本企業がスイスに進出しやすいビジネス環境になった。今のところ、両国の貿易には大きい影響はみられないが、2010年以降、日本企業によるスイス企業買収案件やスイスでの拠点設立のケースが以前より増加傾向にある。